

## 中部山岳地域における融雪水中の化学成分濃度変化

## Chemical dynamics of the snow melt water in the Japanese Alps

# 倉元 隆之 [1]; 鈴木 啓助 [1]

# Takayuki Kuramoto[1]; Keisuke Suzuki[1]

[1] 信大・理・物循

[1] Dept. Environ. Sci., Shinshu Univ.

積雪地では、降雪や乾性沈着によってもたらされた化学物質が、融雪期まで積雪中に蓄積され、融雪時に集中的に流去する。融雪時に積雪中を流下する融雪水は、積雪粒子表面に析出された化学物質を溶かし込み、融雪水中の化学成分濃度は積雪中の化学成分濃度よりも高くなる。また、化学物質を多く含んだ融雪水が流れ込むことによる、河川生態系などへの影響も懸念されている。多雪地域の河川では、融雪期の多流出期間が長く、河川水質に影響を及ぼす期間が長いと考えられる。本研究は、人為的影響のない、北アルプスの多雪地域において、融雪水中の化学成分濃度変化の特徴を明らかにすることを目的とした。

調査は、北アルプスの東側斜面で行った。河川水は自動採水器を用いて定期的に採取した。融雪水は、積雪ライシメーターを設置し採取した。いずれの試料も、ろ過をした後、pHと電気伝導度を測定し、イオンクロマトグラフによって、主要イオン濃度を測定した。河川水は、硫酸滴定法により、重炭酸濃度を測定した。河川水のpHと電導度は、流出高と鏡像関係にあり、流量の増加時には低下し、流量減少時には増加した。